

平成 30 年度

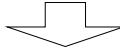
運営に関する計画

大阪市立長吉小学校
平成 30 年 5 月 29 日（修正）

【校訓】 正しく 強く 仲よく

【本校の教育目標】

規律ある学校生活を送り、互いに学び合い、高め合うことができる子どもの育成



重点目標 学校や社会のきまりを守り、正しい行動ができる子どもの育成

健やかで たくましい子どもの育成

心豊かな やさしい子どもの育成

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・児童の学習への意欲はどの学年の児童も高く、学習内容を理解しようと取り組んでいる。しかし、学年が進むにつれて学力差が生まれ、学習の遅れに気づきながらも一歩先に踏み込んでの努力ができない。
- ・基本的生活習慣を身につけている児童は多いが、夜遅くまで起きているとか、よく朝寝坊して朝食を食べずに登校するなど、規則正しい生活習慣が身につけられていない児童もいる。
- ・体力に関しては、運動場に出て体を動かす児童が多く見られる。毎年、縄跳び週間やマラソンタイムを取り入れた体力づくりをしてきた。毎週の児童朝会時のラジオ体操も定着している。休み時間には「みんな遊び」をはじめ、鬼ごっこやドッジボール投げなどクラスや学年で計画を立てて取り組んでいる。
- ・全国体力・運動能力調査では、体力合計点では、男子は全国と比べても遜色ないが、女子は、4ポイントほどの開きがある。反復横とびやボール投げでは、男女とも下回った結果となった。今年度も継続した取り組みを行い、運動能力を高めていく。
- ・校内研修は、研修主任が中心となり年間計画を作成し、全教員が研究授業を開催することができた。分かりやすい教材教具に取り組み、お互いの考えを伝え合える機会を増やしていく。また、授業を通して発表する機会を増やし、児童自身が「わかった」「できた」と感じられるようにしていきたい。
- ・経験の浅い教員がさらに増え、その育成に当たってはあらゆる機会を通して取り組んできた。メンターを中心にして、お互いのスキルを高め合える教育現場も、若手教員で行っている。さらに研修の機会を日々設けていく。
- ・「早寝、早起き、朝ごはん」をこれからも推進して、自分自身の健康について考えさせたい。また、規範意識を高められるように学校のルールや社会のルールをしっかりと教えていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○規律と秩序のある学校を目指し、お互いの良さに気付き認め合う集団の育成を図る。また、将来の夢や希望がもてる教育を目指す。

- ・平成32年度末の児童生活アンケート調査で「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしていますか」という項目について「はい」と答える児童の割合を70%以上にする。
(施策3 道徳心・社会性の育成)
- ・平成33年度の全国学力・学習調査における「自分にはよいところがあると思いませんか」という項目で「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を平成28年度より5%向上させる。
(施策3 道徳心・社会性の育成)
- ・平成29年度～32年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。
(施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- ・平成33年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で「はい」と回答する保護者の割合を50%以上にする。
(施策7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○互いに学び合える環境を構築し、意欲を高めさせ、基礎・基本の学力・体力の定着を確実に目指す。

- ・平成32年度末の児童生活アンケート調査で「国語の学習や算数の学習をすすんでしていますか」という項目で「はい」と回答する児童の割合を85%以上にする。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・平成32年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成28年度より増加させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・平成32年度の小学校学力経年調査における正答率5割以下の児童を、いずれの学年も平成28年度より減少させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・平成33年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成28年度より5ポイント向上させる。
(施策6 健康や体力を保持増進する力の育成)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95 %以上にする。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80 %以上にする。
- 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成 30 年度末の児童生活アンケート調査で「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしていますか」という項目について「はい」と答える児童の割合を 65%以上にする。
(施策 3 道徳心・社会性の育成)
- 平成 30 年度末の児童生活アンケート調査で「自分にはよいところがあると思いますか」という項目で「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。
(施策 3 道徳心・社会性の育成)
- 平成 30 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を 100%にする。
(施策 2 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 平成 30 年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で「はい」と回答する保護者の割合を 70%以上にする。
(施策 7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答率が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと)
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント減少させる。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント増加させる。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成 29 年度より 1 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・平成 30 年度末の児童生活アンケート調査で「国語の学習や算数の学習をすすんでしていますか」という項目で「はい」「少し」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成 29 年度より増加させる。
(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を、いずれの学年も平成 29 年度より減少させる。
(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- ・平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成 29 年度より 1 ポイント向上させる。
(施策 6 健康や体力を保持増進する力の育成)
- ・健康に关心をもち、自主的に健康な生活を送ろうとする子どもを育てる。
(施策 6 健康や体力を保持増進する力の育成)

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立長吉小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80 %以上にする。 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度末の児童生活アンケート調査で「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしていますか」という項目について「はい」と答える児童の割合を 65%以上にする。 (施策 3 道徳心・社会性の育成) 平成 30 年度末の児童生活アンケート調査で「自分にはよいところがあると思いますか」という項目で「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。 (施策 3 道徳心・社会性の育成) 平成 30 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を 100%にする。 (施策 2 安全で安心できる学校、教育環境の実現) 平成 30 年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で「はい」と回答する保護者の割合を 70%以上にする。 (施策 7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> ・規律と秩序のある学校をめざす。 ・平成30年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。 	
取組内容②【施策3 道徳心・社会性の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さに気付くとともにお互いの良さを認め合う集団の育成を図る。 ・友だちと力を合わせて係や当番の仕事に取り組む態度を育てる。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度末の児童生活アンケート調査で「自分にはよいところがあると思いますか」という項目で「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を75%以上にする。 ・平成30年度末の児童生活アンケート調査で「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしていますか」という項目について「はい」と答える児童の割合を65%以上にする。 	
取組内容③【施策7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で「はい」と回答する保護者の割合を向上させる。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で「はい」と回答する保護者の割合を70%以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

取組内容②

取組内容③

次年度への改善点

取組内容①

取組内容②

取組内容③

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答率が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと) 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント減少させる。 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント増加させる。 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成 29 年度より 1 ポイント向上させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度末の児童生活アンケート調査で「国語の学習や算数の学習をすすんでいますか」という項目で「はい」「少し」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している(どちらかといえばしている)」と答える児童の割合を平成 29 年度より増加させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を、いずれの学年も平成 29 年度の現状維持か、減少させる。 (施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成 29 年度より 1 ポイント向上させる。 (施策 6 健康や体力を保持増進する力の育成) 健康に関心をもち、自主的に健康な生活を送ろうとする子どもを育てる。 (施策 6 健康や体力を保持増進する力の育成) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の学習タイムとして、本年度は昨年度から継続して、算数の計算領域の基礎基本の定着を図る。また、研究教科として算数の「個が生きる算数科の授業つくり」とし、「主体的な学びの過程」や「対話的な学びの過程」を実現するために授業改善を行う。 計画的に各学年1回以上の授業研究会を行い、指導力の向上を図る。 校内研修会を実施し、相互に啓発し合い指導力の向上を図る。 図書室や図書の整備、読書ノートの活用などを通して、読書活動の向上を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度末の児童生活アンケート調査で「国語の学習や算数の学習をすすんでいますか」という項目で「はい」「少し」と回答する児童の割合を80%以上にする。 各学年1回以上の授業研究会を行う。 年間を通して校内研修会を実施する。 平成30年度末の児童生活アンケート調査で「自分から進んで読書をしますか」という項目で「はい」「少し」と回答する児童の割合を75%とする。 	
<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成29年度より1ポイント向上させる。 健康な生活習慣を身につけさせるために「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、実践しようとする態度を育てる。 ラジオ体操・水泳・なわとび・駆け足などによる体力づくりを図る。 好き嫌いなく食べられるように、食育指導を行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成29年度より1ポイント向上させる。 平成30年度末の児童生活アンケート調査で「夜はできるだけ早く寝るようにしていますか」という項目で「はい」と答える児童の割合を60%以上にする。 平成30年度末の児童生活アンケート調査で「ラジオ体操・なわとび・駆け足タイムや体育の学習を通して、できるようになったことが増えましたか」という項目で、「はい」と回答する児童の割合を60%以上にする。 平成30年度末の児童生活アンケート調査で「苦手なものもがんばって食べるようになりますか」という項目で「はい」と答える児童の割合を60%以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

取組内容②

次年度への改善点

取組内容①

取組内容②